

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌

Apr 2010

4

No. 152

特集

働くことと リカバリー

さあ、今日もがんばろう。

地元新聞配達を行ってる北川憲一さんと漆原正敏さん。
自転車の後ろには大きな荷物が積まれている。

働くことと



リカバリー

アメリカでは、「どんなに症状が重くても、本人が働きたいと希望し仕事に就くことが、回復につながる」とし、積極的に就労支援を行っていくプログラムがある。3月4日、岡山県高梁市において「IPS-TOKYO」のメンバーをお招きし、「IPS研修」が行われた。「IPSプログラム」の概要について取材を行った。

「働きたい」、そう願う精神障害者が急増し、(2008年厚生労働省発表) ハローワークにおける精神障害者の新規求職申込件数は対前年度比24・9%(5679人)と大きく伸びている。

しかし、精神障害者の就労状況は、精神障害者約35万人のうち、施設・作業所などに通所する人も含み就業者は、17%(6100人)に留まっている。しかも実際に福祉施設を利用しても、なかなか就労に結びついていない。2000年社会就労センタールの調査によれば、「精神障害者や家族の6割は一般就労を希望しているが、福祉施設からの一般就労は1%に留まる」という現状が明らかになっている。

IPS「個別職業紹介とサポート」(individual placement and support)は、1990年代にアメリカで開発され、働くことに大きな希望を持つ人たちを手助けするプログラムである。

働くことが「リカバリー」 につながる

これまでの就労支援のあり方は、本人の課題を見つけ、それを訓練してできるように取り組んでいくことに力が注がれていた。しかしIPSの支援では、症状の重さに関係なく本人の長所、やりたいことを最大限に尊重し、自らのリカバリーの道を歩むことができるよ

う、そっと背中を押す。リカバリーとは、「人として尊重され希望を取り戻し、自分の目標に向かって挑戦しながら、かけがえない人生を歩むこと」である。IPSの支援が目指すものは、「安定した就労」ではなく、「一人ひとりのリカバリー」の実現だ。今回、東京・多摩市にある「桜ヶ丘記念病院」で行われているIPSによる就労支援プログラムについて学ぶことができた。お話を

伺ったのは「桜ヶ丘記念病院」で就労支援を担当している中原さとみさんだ。

2004年、病院のデイケアに所属。この当時、働きたいが、なかなか地域とのつながりが見出せない利用者が数多くいた。そこで、就労支援プログラムを開始（2004年7月～2005年6月）。プログラム参加者を募集し、週1回のジョブガイダンス（就労前講義）を行い、その後週1～2回、デイケアでの喫茶運営・清掃トレーニング・パソコン講座を行った。

「喫茶運営では、接客などの技術を学ぶ中で、就労を目指していました。しかし本来の目的は、お客さんを増やすことではなくて、ご本人の希望に寄り添って、社会とつながっていく役割を果たしていくことだと感じたのです。喫茶トレーニングの運営に時間を取られ、個人面接や職場開拓が十分にできず、スタッフの間では『このままではいけない』と感じていました。そのときにアメリカのIPSに出会って、このモデルを導入したのです」

2005年7月からIPSによ

る支援を開始。これまでのグループワークではなく、個別就労支援を基本とした。

「大人数を一度に集めてバスに乗せ、ひとつずつバス停で停まるような支援ではなく、ご本人が運転するスーパーカーの助手席に我々スタッフが乗って素早く進む、IPSモデルが必要であると考えたのです。」

桜ヶ丘記念病院では、IPSの7原則にない、就労支援サービ

桜ヶ丘記念病院の就労プログラム「7つの原則」

- ①「働きたい」というすべての方が参加できます。
- ②一般就労（最低賃金以上・健常者と同じ職場）を目指します。
- ③チームでサポートします。
- ④迅速に職探しを始めます。
- ⑤長所や興味、個性に焦点を当てます。
- ⑥個別の経済的な相談を提供します。
- ⑦就職後も継続的に支援します。

就労支援の新しい考え方IPS

Individual Placement and Supportの略語です

個別就労支援モデル

従来型の支援



IPS



乗合バスよりスーパーカー

働きたいと願うすべての 人に迅速に支援開始

IPSでは、「働きたい」という関心を持つすべての人を支援の対象としている。重い症状のある人や、就労経験が乏しい人、一般雇用への準備が整っていないという理由で対象から除外されることはない。

「働きたい」と希望すれば、迅速に就労支援を行っていく。

まず、仕事を得るための職業プロフィールを聞き、リカバリーシートに自分の目標や挑戦すべきことを自分の言葉で記入する。これらの情報は、電子カルテに記入し、希望・長所・趣味・目標をチーム全体で共有できるようにしている。「このような情報は診察場面では主治医から聞かれないですからね。日常生活でのご本人のいいところ



稲城市市役所・障害福祉課飯野雄治さん(右)と桜ヶ丘記念病院・医療相談室の中原さとみさん(左)。目の前の一人ひとりの声なき声に耳を澄ませて向かい続けることを大切にしている。

もチームスタッフで共有できるようにしています。」
中原さんたちの目指す一般就労とは決してフルタイムの仕事だけではなく、週1回2時間で「最低賃金・健常者と共に働く職場」を目指している。

長所や興味、個性に焦点 を当て職場開拓開始

職業プロフィールから、本人のやりたいこと、長所、興味や経験に基づき仕事探しを開始する。

「身だしなみが得意ではない方がおられ、デイケアのスタッフは毎日口うるさく『お風呂に入ってください、シャワーを浴びた方がいいのでは』と言っていました。し

かし歴史に興味がある方で、遺跡の発掘の仕事に就くことができました。ただ単に口うるさく指摘するのではなく、ご本人の長所、興味を見ていく大切さを知りました」
政治に興味のある方が議員秘書の付き人、英語は得意な人が翻訳の仕事、柔らかく優しい人が介護の仕事、手先が器用な人が製造の仕事、集団が苦手でも一人でコツコツできる清掃など、柔軟な考えで仕事探しを行っていく。

「興味・長所に注目をし、弱点の中にも強みがあるという発想の転換をしながら、その方に合致する職はないか、何か社会とつながる方法はないかと考えています」

実際の職場開拓は、ハローワークやインターネット、新聞の求人広告、ビジネスネットワーク等を通じて行っている。

「新聞の求人広告には時々おもしろい仕事があるんですよ。ミュージカルが好きなのに、新聞の折り込み広告にあったミュージカル事務所を紹介したこともありました」

また、求人が出ていない企業でも問い合わせを行い、職場見学の依頼をすることがある。

「例えば、ゴルフの仕事を希望している人であれば、ゴルフ場を見学させてもらいます。これによりご本人は、ゴルフ場での仕事のイメージを得ることができます。更にゴルフ業界の雇用情勢や職場開拓の効率的な方法を教わり、別のゴルフ場を紹介してもらうのです。」

すぐに雇用結び付かなくても、人と人との接点により、「いずれは本人が働いたり活躍する場につながる」という発想の豊かさが求められる。

地域とのコラボレーション による就労支援

東京・稲城市役所障害福祉課の飯野雄治さんは、2006年から初めての就労支援担当となり、障害者全般的就労支援を行っている。精神障害者に関しては、飯野さんと中原さんは日頃からお互いに情報を交換し合っているが、更に職探しにおいて重要な役割を果たしているのが、『多摩南部就業支援連絡会』のネットワークである。

市障害福祉課、ハローワーク、特別支援学級の先生、企業、就労支援機関など、30機関が連携し、情報交換などを行っている。「地域と一緒に就労支援をおこなってきました。地域とコラボレーションしているからこそ、地域で支えることの大切さに改めて気づかれています。」

最近ではこんなことがあった。小さいころから手先が器用で、折り紙で小さなきれいな箱を作っていたAさん。引きこもりがちだったAさんが、時々ダイケアに出てきて折り紙を折っていた。飯野さんと中原さんはこの作品にとっても感動し、何とかAさんと社会をつな



素敵な折り紙の制作物が、外資系企業の玄関で作品として飾られた。

げたいと思った。すぐにチラシを作成し多摩南部就労支援連絡会のメンバー・知人などにアイデアを求めメール送信した。すると様々なアイデアが届き、外資系企業の玄関に展示することにより活用してくれることになった。そして後日、展示されている様子を撮影した写真の入った写真立てで、1万円分のお菓子がお礼として帰ってきた。その包みには、次のように書かれていた。

『素敵な折り紙作者との出会いにつながり、心のふれあいが持てたことを大変うれしく思います』
ネットワークとアイデアの共有こそが、「障害者」ではなく「新たな役割」を

獲得し、自信を得ることのできるバリーにつながっていくのである。

IPSでは就職後も個々に合わせた継続・同行支援が必要に応じて提供される。職場訪問で気付いたことなど、支援過程において把握したアセスメントはどんどん電子カルテに書きこまれていく。職場訪問の際の本人の様子、職場スタンプからのコメントなども記入される。

「働くことがリカバリーにつながる」ことは、実際に就労している方の生き生きとした表情からも実感できる。社会とつながることで、自分らしい生活を取り戻すことは、十分可能なのだ。本人主体の支援がリカバリーの重要な鍵を握っている。

『IPS-Tokyo』

情報発信を行い、精神障害者の社会参加と就労・リカバリーに寄与することを目的にしている。

IPSに関する勉強会を定期的に開催している。

<http://ipstokyo.blogspot.com/>

気と共存していくか、うまくやっていくのかということ
を思っている。そういう病気もひっくるめて自分だと思
うから。自分のその時の気持ちに素直になって自分はど
んな時に喜びや楽しみを感じるのかということを見つけ
ていきたいと思っている。」

「病気とうまく共存していくためには、まずは自分を
知ること、私の場合はある意味開き直ることで楽になれ
た。今の自分をありのままに受け止めてこんな自分でも
いいじゃない！と思うことを大切にしている。自分とい

う人間を知って、だんだんと自信をつけて社会へ出たい
と思う。」と、それぞれが自分の病気のこと、自分のこと
を語り合い、とても深い良いつどいの会となりました。

会が終了の時間がきても、なんだか名残惜しい気分にな
り、次の開催を楽しみにしています！

次回つどいは4月16日(水) 13時半～テーマは
「**人とかかわり方、人付き合いについて**」です。
みなさん気軽に参加してください★ そして語り合いましょう！

■香川県「はなぞの」と交流

ピアサポートについて話をしました

3月12日(金)香川県丸亀市の三愛会「コミュニティ
ケアセンターはなぞの」から、メンバー5名、スタッフ2
名で、ばる・おかやまの見学に来られました。「はなぞの」
とは以前クローバーが香川県で講演をさせてもらった時
に交流したことがあり、久しぶりに再会できた方もおら
れました。

クローバーのメンバー3名、スタッフ2名で、あすな
ろ福祉会の説明、クローバーの活動紹介をして、お茶を
飲みながら楽しく交流をしました。

「はなぞの」の方はとても意欲的でたくさんの質問を
もらい、私達クローバーがお話しできることをさせても
もらいました。質問内容を紹介します。

Q. ピアサポーターとして相談を受けて、しんどくなっ
たり、具合が悪くなったりすることはありますか？

A. もちろん私たちもしんどくなったり、悩んでしま
うことがあります。そんな時は同じサポーターやスタッフ
に相談して、ひとりで抱え込まないようにしています。

また私たちの役割は、悩みを抱えている方自身で解決
できるように寄り添うことだと思っています。



はなぞのとの交流の場面▲



ばる・おかやまの玄関にて記念撮影▲

Q. 家事援助をしていると聞きましたが、ピアサポータ
ー自身の部屋は綺麗なのですか？自分の部屋もきれいに
できないのに他人のことができるのかどうかと感じてい
るのです。

A. 正直、あまり綺麗なほうではなかったです。でも不
思議なことに、他の人の家の掃除に行くことで、自分の
部屋も綺麗にしようという思いになれるのです。人の役
に立つことで気分が変わり、前向きな気持ちになれたの
だと思います。自分がサポートしているようで逆に支え
られたりしています。

「はなぞの」のみなさん、遠いところからはるばる来て下さりありがとうご
ざいました！私達自身も刺激をもらえたように思います。土産で頂いたあん
パンも美味しくいただきました★ごちそうさまでした！

お知らせ

よろしく願
います！気
軽に
お下
さいね。

■今月の相談電話の受付時間

火曜日 10時～17時

水曜日 13時半～17時

木曜日 10時～13時半

金曜日 10時～13時半

相談 TEL ☎
(086)
271
5689

■3月の活動報告(2/21～3/20)

活動日 14日(水・木は半日)／電話相談 47件

交流室利用者 延べ100名／家事援助 6件

弁当配達 14回／講演 1回／引越し 1回

いつも
ありがとう
ございます！

よつばのクローバーだよ

■編集・発行 ピアサポータークローバー ☎086-271-5689

…ひとりぼっちをなくそうよ…

平成 22 年 4 月 1 日

No.3

■河田病院グループホームで体験発表

辛い思いをしてきたのは自分だけではない

2月24日(水)、河田病院グループホーム「FRIENDLY」の会からクローバーの活動紹介をしてほしいと依頼を受け、ピアサポーター2名とスタッフ1名で参加してきました。

この会は、1月20日から6回を1クールとし、「病気のこと、薬のことを一緒に勉強しよう」と題し、グループホーム入所者を対象に勉強会を開催しています。

私達が参加した最終回では「これからの生活のために」というテーマのもと、夢や希望、目標についてみんなで語り合いました。そこでクローバーの活動紹介、体験談、これからの夢を発表してきました。

参加者はグループホーム入居者、ケースワーカー、寮母、実習生、合わせて23名。皆さん熱心に聞き、質問も数多く、とても嬉しく思いました。

発表後、グループに分かれてお互いの夢や目標を語り合いました。グループホーム一二三の方から、「話を聞いて励まされた。」「辛い思いをしてきたのは自分だけじゃない。」「安心感をもらった。」「病気という経験を社会に貢献しているのはすごいと思った。」などたくさんの感想

をもらい、私達クローバーにとっても刺激が多く、大変有意義な時間を過ごすことができました。

交流の機会ができて、とても楽しかったです。また、機会があれば参加したいと思いました。ありがとうございました。(りつこ・きくえ)

体験発表をしているクローバーメンバー▼



■第6回つどいを開催

病気とうまくやっていくには自分を知ること

3月10日(水)「第6回つどい」をばる・おかやまで開催しました。今回のテーマは「自分の病気に対する対処法について」。参加者9名で、各々の思いを語り合いました。そこで出された対処法として「スタッフや友人に相談する」「薬を飲む」「自分はこういう傾向があるから考え方をえるように努力している」など、それぞれが自分なりの対処法や努力をしていました。

参加者の話を聞いて、「自分も同じことで悩んでいた」と共感されたり、自分の場合の対処法をアドバイスしあう場面も見られました。

ここで参加された方の感想を少し紹介します。

「みんなの話を聞いて、それぞれが重荷を背負っていると感じる。若い時は、病気を克服して普通の人間になりたい、治したい!と思っていたけど、今はどうやって病



ばる・おかやまのダイニングでのつどいの場面▲

今年も健在。抜群のチームワーク アスナローズ練習試合

あすなろ福祉会のソフトボールチーム、『アスナローズ』（主にせつけんセンターや、ぱる・おかやまに所属する利用者が中心）の練習試合が3月13日に行われました。

対戦相手は、県立朝日高校の在学生が中心のチーム『朝日ヤンキース』。去年から参加しているメンバーも多く、その一人でもある北川さんは、この冬から努力を重ね、生涯初めての内野安打を記録し「頑張ったから打てたんじゃ」と嬉しそうに話している姿が印象的でした。

他のメンバーもこの試合がデビュー戦ということもあり、緊張した様子も見られましたが、間部キャプテンを中心に楽しい雰囲気です試合をすることが出来ました。

試合結果は8対9で惜しくも負けてしまいましたが、試合後の表情は、充実感溢れていました。

試合後、イベント等のボランティアとして4年間務めて下さった、前場さんをみんなで胴上げして、開幕戦は幕を閉じました。

NEWS

■岡山県が精神障がい理解をすすめるためのハンドブックを発行

精神障害の方の地域移行をすすめていくにあたって、安心して住む場所の確保ができるようにハンドブックが発行されました。病気についての正しい理解を求めたもので、各地域活動支援センターなどに配布済みです。

ハンドブックに関する問い合わせは「不動産屋さん・大家さんのためのハンドブック」(写真左)は岡山県保健福祉部健康対策課、「もっと知って欲しい・・・精神障がいのある方のこと」(写真右)は岡山県精神保健福祉センターです。



■利用者負担上限月額の改正について

障害者自立支援法の一部制度改正により、平成22年4月より市町村民税が非課税の方（低所得1・低所得2）の方は負担上限額が0円となります。詳しいお問い合わせは、

岡山市保健福祉局障害福祉課
岡山市北区鹿田町1-1-1
TEL 086-803-1235



ボランティアの前場さんを全員で胴上げ。前場さん4年間ありがとうございました。この日4打数3安打1打点の活躍を見せました。

デンマーク福祉研修旅行 参加者募集します！！

□デンマークの福祉事情

面積は九州とほぼ同じ大きさの小国デンマークは、優れた福祉国家として知られ、様々な制度が充実しています。誰もが原則として無料で病気の治療を受けることができ、入院も出産も一切お金がかかりません。また、学費は大学に至るまで無料のため、すべての子どもたちに平等に教育の機会が与えられます。高齢者福祉や年金制度、失業手当などの助成金制度も整っています。

デンマークの福祉事情を学び、文化に触れてみませんか？

日程 平成22年9月(予定)

参加希望、興味のある方は、

「デンマーク福祉研修旅行実行委員」

岡山市浜475-5 リサイクルせつけんセンター

[担当：石本] まで

4月活動予定

1	木	
2	金	
3	土	あすなろ福祉会「お花見会」
4	日	休み
5	月	休み
6	火	陶芸教室 13:00～
7	水	パソコン教室 14:00～15:00
8	木	スタッフ研修のため休み
9	金	スタッフ研修のため休み
10	土	スタッフ研修のため休み
11	日	休み
12	月	休み
13	火	陶芸教室 13:00～
14	水	つどい 13:30～15:00
15	木	
16	金	
17	土	ギターサークル 10:30～12:00 お抹茶教室 14:00～15:00 パソコン教室 11:00～12:00
18	日	休み
19	月	休み
20	火	陶芸教室 13:00～
21	水	パソコン教室 14:00～15:00
22	木	
23	金	
24	土	パソコン教室 14:00～15:00
25	日	百間川ふれあいフェスティバル
26	月	休み
27	火	陶芸教室 13:00～
28	水	パソコン教室 14:00～15:00
29	木	昭和の日 休み
30	金	もも太郎杯リーグ戦（奥市グラウンド）

イベント案内

3(土) あすなろ福祉会「お花見会」

今年もこの季節がやってきました！桜の花の下でみんなで焼肉を楽しもう！

場 所	護国神社
時 間	11:00～
参加費	1000円



14(水) つどい「人との付き合い方」

「人との付き合い方・関わり方」というテーマで自由に自分の意見を伝えます。「言いつ放し・聞きっぱなし」が原則です。

場 所	ばる・おかやま1階
時 間	13:30～15:00

25日(日) 百間川ふれあいフェスティバル

リサイクル石けん&マドレーヌの販売を行います。その他多数出店あり。ぜひ遊びに来てください！

場 所	百間川緑地わいわい広場
時 間	9:00～15:00

30日(金) もも太郎杯リーグ戦

岡山市内の病院など関係機関8チームの参加によるソフトボール大会！「アスナローズ」も参加します！

場 所	奥市グラウンド
時 間	10:00～

陶芸教室	火曜日	13:00～	石けんセンター	陶芸家芝先生による指導
ソフトボール	火曜日	15:30～	百間川グラウンド	アスナローズチーム練習
パソコン教室	水曜日	14:00～	ばる・おかやま	初めての方も気軽に参加してください！
	土曜日	11:00～		
お抹茶教室	17日	14:00～	ばる・おかやま	風早先生による指導
ギター教室	17日	10:30～	石けんセンター	NO MUSIC NO LIFE 初めて楽器に触る方も大歓迎です！！

今月の キラリ☆

三宅 紀久恵さん

みやけ・きくえさん 血液型A型 性格：明るい



長いトンネルを抜け 私の人生、まだまだこれから

「あすなろ福祉会」と出会い、自分と同じような病気の経験を
した仲間との出会いにより、私
の人生が大きく変わりました。

以前の私は、自分を障害者だ
と受け入れたくなかったので
す。でも、リカバリーという言
葉を知り、まだまだ自分の人生
はこれからだと思ふことができ
ました。等身大の自分を過大評
価するでもなく、過小評価する
でもなく、ありのままの自分を
受け入れることができるように
なったのです。

今の私には居場所がありま
す。受け入れてくれる仲間の存
在が、自分を認め、肯定するこ
とにつながっているのです。こ
れからは、私と同じように悩ん
でいる人の力になりたい、ピア
サポーターとして、交流室をみ
んなが憩える場所にしていきた
いです。

そして、「親孝行をしていくこ
と」。これが私の夢でもあり目標
です。

【表紙の写真】

北川憲一さんと漆原正敏さんの2人は地
元新聞配達の仕事を始め8か月。「一日も
仕事を休まず続けている」と誇らしげに
語る姿が印象的でした。



【編集後記】

今月号から「ぱる通信」をリニューアルしまし
た。「つい読んでしまう」通信を目指していきた
いと思います。取り上げて欲しい特集などあり
ましたら、ぜひお知らせください！（井手）